

2016年4月12日

国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館特別展のご案内

日本では、すでに縄文時代より木の実などを原料にした酒づくりが始まっていたと考えられています。本来、酒は神様に供え、御神酒として御神前でいただくもの、また、ハレの場のための特別な飲み物だったのですが、社会環境の変化、醸造技術の発達とともに江戸時代以降、大衆化していきました。

今回の特別展では、当館の漆器と陶磁器の収蔵品より日本の酒に関連する器類約200点を選びご紹介いたします。祝いの席では角樽や指樽などの特別な酒樽や漆塗りの片口が用いられ、物見遊山には重箱や酒器を納めて携行できるように工夫された提重や弁当を持参しました。形、文様、収納方法に趣向を凝らしたのものや、豪華な蒔絵が施されたものも多くあります。また、量り売りだった酒を家に持ち帰るための陶磁器の通い徳利の他、様々な形の盃、盃台や銚子などからは、人々が日常的に酒を楽しんでいた様子が伝わってきます。本展を通して、今では珍しくなった日本の酒器のバラエティーに富む形と工夫をお楽しみいただければ幸いです。

つきましては、なるべく多くの皆様にご来館いただけますよう、本展をご紹介いただきたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

記

展覧会名：「酒の器」 Japanese Sake Utensils

会 期： 2016年4月12日（火）－7月1日（金）

会 場： 湯浅八郎記念館2階特別展示室

交 通： JR三鷹駅および武蔵境駅より小田急バス「ICU行」にて終点下車または
武蔵境駅南口よりタクシーで10分

開館時間： 火曜～金曜 10：00～17：00／土曜 10：00～16：30

休館日： 日曜・月曜・祝日・7月中の土曜日

入館料： 無料

関連公開講座： 講 師 吉田 元（よしだ・はじめ）氏 種智院大学名誉教授

タイトル 「日本酒の歴史と文化」

日 時 2016年5月28日（土）14：00～15：30

会 場 湯浅八郎記念館 エントランスホール

聴講無料・予約制（電話またはホームページから）

お問合せ：国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館

〒181-8585 三鷹市大沢3-10-2

Tel: 0422-33-3340 / Fax: 0422-33-3485 E-mail: museum-office@icu.ac.jp

URL: http://subsite.icu.ac.jp/youasa_museum/

担当学芸員：福野明子